



市民救急ライフサポータースタート ボランティアで心肺蘇生を普及

くまもとあつとも
隈元厚知さん(50歳)香住



豊岡市民救急ライフサポーターとして、豊岡消防署などが実施する救命講習において、心肺蘇生法やAED使用などの指導補助で活躍しているのが隈元厚知さんです。

この4月からスタートした同サポーター制度。28日には、初となる講習会「救急入門コース」が戸牧北区公民館で開催され、隈元さんを含む3人の市民ボランティアが参加しました。「ポイントを押さえて、分かりやすい説明を心掛けた」と、講習会を無事に終え、ほっとした様子でした。

「身内に何かあったら助けたいし、地域の役にも立てたい」と、気軽な気持ちで応募。事前に消防本部が実施した養成講習会を「蘇生が第一。そのためには、胸骨圧迫で肋骨が折れたとしても、続ける勇気が必要なことに驚いた」と振り返ります。

「市民全員が心肺蘇生をできる豊岡市」のキャッチフレーズの下に集まった1期生16人の同サポーター。「仲間と一緒に、市民と楽しみながら活動を続けていきたい」と、隈元さんは微笑みます。

Toyooka Topics —とよおかの“旬”な人と話題—



▲市役所市民広場でスイーツを楽しむ来場者

菓子祭前日祭 約28,000人来場

4月20日、本庁舎前の大開通りで、菓子祭前日祭(主催・同実行委員会)が開催され、約28,000人の来場者が、お菓子の食べ歩きやスタンプラリーなどを楽しみました。

菓子祭前日祭は、お菓子の神様「田道間守命」を祭る中嶋神社(三宅)の菓子祭例大祭前日に行われるイベントです。9回目となる今年は、県内外から51店の菓子店が参加し、自慢の大福やドーナツ、せんべい、ケーキなどのお菓子を販売。市役所市民広場では、家族連れやカップルらが、芝生の上や木陰でお気に入りのお菓子を食べ比べしていました。

城崎温泉まつり

稚児行列に住民ら目を細める

4月23・24日の2日間、城崎温泉街周辺で城崎温泉の無事湧出や繁栄などを祈る「温泉まつり」が開催され、露店やイベントでにぎわいました。

24日は、僧侶や稚児などが列を成して温泉街を歩き、七つの外湯それぞれの前で祈禱をする「開山忌湯祈禱」が行われました。道端では、住民や観光客が足を止め、稚児の姿に「かわいらしいなあ」と目を細めたり、年に一度のまつりの様子を写真や動画に収めたりしていました。

3年前から城崎地域に住み、初めての稚児行列への参加を心待ちにしていたという小川龍君(城崎小1年)と妹の梨花ちゃん(2歳)は「楽しかった!」と、かわいい笑顔を見せてくれました。



▲おそろいの衣装を着て歩く稚児